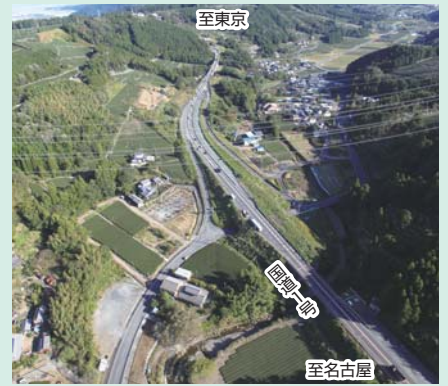


島田金谷バイパスの概要

- 国道1号島田金谷バイパスは、東西軸の交通需要に対して不足する交通容量を補完し、物流の効率化を図るとともに、市街地や大井川渡河部の交通混雑の緩和、交通安全性の向上・生活環境の改善等に寄与する重要な道路です。又、東西軸の役割のみならず、新東名高速道路及び東名高速道路・御前崎港・富士山静岡空港との連携として、陸・海・空の連携強化に寄与します。



大代IC付近より東京方面を望む(平成24年11月撮影)



菊川IC(平成24年11月撮影)



大代IC(平成24年11月撮影)

整備目的

- 国道1号島田金谷バイパスは、平成17年3月の静岡県内4バイパス(藤枝、掛川、磐田、浜名)の無料化以降、交通量が増加し、大井川渡河部では、交通のボトルネックとなっており、朝夕のピーク時を中心に激しい渋滞が発生するなど、大きな問題を抱えています。
- また、新東名高速道路の開通により、島田市街地から島田金谷ICへのアクセスルートになるとともに、周辺には、富士山静岡空港や御前崎港といった広域物流拠点があることから、静岡県内の物流、人流の要所であり、陸・海・空のネットワーク強化が求められています。
- これらの問題解消に向け、平成24年度に島田金谷バイパスの4車線化が事業化されました。

(渋滞状況)



向谷IC付近より 名古屋方面を望む

(平成24年1月撮影)

(渋滞状況)



向谷IC下りONランプ合流状況

(平成24年1月撮影)